

## 上・下侍塚古墳

おおたわら ゆづかみ  
栃木県大田原市湯津上地内

第1回現地説明会資料 令和5年9月23日(土)

栃木県生活文化スポーツ部 文化振興課  
宇都宮市鳩田1-1-20 Tel. 028-623-3425公益財団法人とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター  
下野市業474  
Tel. 0285-44-8441  
http://www.maibun.or.jp

栃木県では重要な遺跡や文化財の保存・活用事業「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」の一環として上・下侍塚古墳の調査を行なっています。

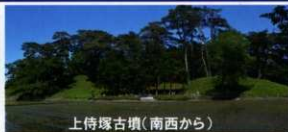
今回は令和5年度7月～9月の上侍塚古墳発掘の調査と、下侍塚古墳で実施した地中レーダ探査の結果をご紹介します。

## 1 上・下侍塚古墳 (前方後方墳)

## 上侍塚古墳

総長 154m(推定) 墳長 114m

江戸時代に徳川光圀の指示で発掘調査と墳丘修復をしたことでも知られていますが、光圀の発掘以降調査は行なわれていませんでした。



上侍塚古墳(南西から)

## 下侍塚古墳

総長 108m 墳長 84m

上侍塚古墳の北約800mの場所にある前方後方墳。1975年に古墳周囲の調査は行なわれましたが、墳丘部は調査されていません。過去の発掘調査で周溝や葦石を確認しています。



下侍塚古墳と前方後方墳の構造

## 2 令和4年度調査の概要

令和4年度は上侍塚古墳の周溝や後方部の斜面、くびれ部を中心に調査を行ないました。

後方部周溝の北西隅や江戸時代の発掘時に墳丘修復に使う土を取ったとみられる痕を確認しました。

上侍塚古墳  
模式図(上が北)

葦石と細かく割れた土器の破片

くびれ部の調査では、前方部・後方部斜面から転落した葦石を確認しました。また、東くびれ部では意図的に細かく砕いた土器が出土しています。



葦石と土器の出土状況

後方部墳丘の調査では、葦石やテラス部(平坦な面、段築)を確認しました。

西側斜面では転落した葦石とともに墳頂部から転落してきた土器が出土しています。

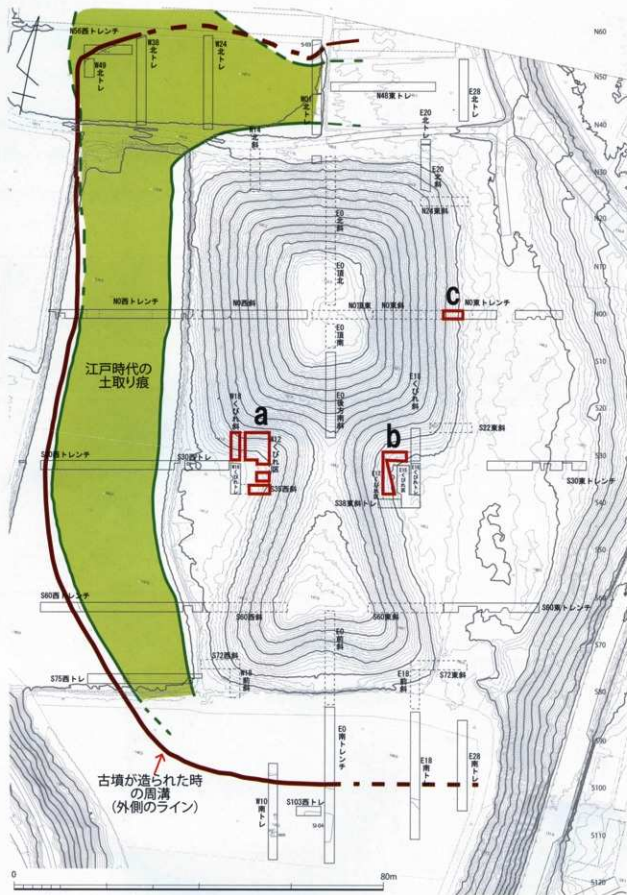


(白線はテラス部では見えません)  
現在の古墳の姿



前方部南東側の周溝

前方部南東の周溝幅が約20mであることが確認できました。底面の砂礫層が東に向かうほど浅いため周溝も浅くなっていくと思われます。



### 3 令和5(2023)年度調査トレンチ(試掘溝)の調査目的

昨年度は後方部墳丘の一部と東西のくびれ部の一部を調査しました。くびれ部については昨年度確認出来なかった部分の調査を継続しています。また、前方部墳丘については不明確な部分が多く、これらを確認するため、今後調査を開始します。

#### 4 トレンチ調査の状況

##### a 西くびれ部 (W18くびれ斜・W12くびれ区・S32西斜・S35西斜) トレンチ

西くびれ部後方部側では、転落した葺石(ふきいし=古墳の表面を覆う石)と古墳が造られた当時のまま残っていた葺石、墳丘の盛土を確認しました。葺石を観察するとW12くびれ区の葺石はW18くびれ斜トレンチよりも小さい石が使われていることがわかりました。

墳丘の傾斜を見ると下っていくにつれ、傾斜が緩やかになっていることも判明しました。



墳丘の傾斜(北西から)



葺石の様子(南から)

前方部側のS32西斜・S35西斜トレンチでも転落してきた葺石を確認しています。

この調査区では右写真のように土器片が多く出土しています。そうした状況から前方部の上部にも土器が並べられていて、それらが転落してきたと考えられます。



西くびれ部前方部側土器出土状況(北から)

##### b 東くびれ部 (E12くびれ区)

E12くびれ区では、転落した葺石を確認しました。また、一部で地山であるロームを削って墳丘の斜面を造っている様子もわかってきました。また、後方部墳頂部から転落したと考えられる土器も出土しています。

現在は、墳丘の裾部分と、前方部と後方部の接続部分を確認することを目的に進めています。



東くびれ部後方部側の転落葺石(西から)

##### c 後方部東斜面 (N0東斜) トレンチ

N0東斜トレンチでは、墳丘の表面や転落してきた葺石、古墳が造られた当時のまま残っていた葺石、古墳が造られる前の地表面(旧地表面)を確認しています。旧地表面は現在の地表面よりも約1.1m高い場所を確認しました。また、転落葺石と共に土器の破片も出土しています。これらの土器は墳頂部に並べられていたものが転落してきたものと考えられます。



後方部東斜面トレンチの葺石(西から)



